

看護部日記

妊婦さんの不安に寄り添って

中央第2・3階病棟は産科病棟です。治療の必要な妊婦さんや産後のお母さん、赤ちゃんが入院されています。

当院は地域周産期母子医療センターとしての役割もあり、正常な妊娠経過の方だけでなく、ハイリスク妊娠の方の受け入れもしています。

今回はハイリスク妊娠の中



でも最近特に増えてきている糖尿病合併妊娠や妊娠糖尿病（妊娠中にはじめて発見または発症した糖尿病に至っていない糖代謝異常）の妊婦さんとの関わりについて紹介したいと思います。

「先生から糖尿病と言われたのですが、赤ちゃんへの影響は大丈夫ですか？私のせいで赤ちゃんに何かあったらどうしよう…」と涙目で相談されたことがあります。妊娠糖尿病と診断され、不安でいっぱいだったのです。食事療法のみで大丈夫な場合もありますが、血糖値の状態によりインスリン療法が開始になる場合もあります。インスリン導入となると妊婦さんの不安はますます大きくなります。正



中央第2-3階病棟
さとう ゆう
佐藤 優

常な妊娠経過であっても妊婦さんはたくさん不安を抱えています。妊娠・出産・子育ての期間を楽しく過せるように、常に妊婦さんに寄り添う身近な存在であるよう心掛けています。

当院には糖尿病療養指導士会があり、看護師だけでなく、栄養士・薬剤師・臨床検査技師など他職種も連携して糖尿病患者さんのサポートをしています。

これからも妊婦さんやご家族の笑顔・赤ちゃんの元気な産声にたくさん会えるよう、他職種との連携を深め、妊婦さんに寄り添っていきたく思います。

上司から一言



中央第2-3階病棟 室長
いがらし たかこ
五十嵐 貴子

安心して妊娠・出産できるためには、地域の産科医療の充実が必要不可欠です。当院は、地域周産期母子医療センターとして、その役割を担い、母児ともに順調に経過できるよう、医師や他職種と連携を図りながら、日々ケアの充実を目指しています。

佐藤さんは、助産師として就職して七年目。病棟では、新人指導・医療安全を担当し、リーダーとして活躍しています。いつも笑顔で妊婦さんに寄り添い、励まし、様々な援助を責任を持って行っています。また、とても努力家で、メディカルアロマセラピー・糖尿病療養指導士の資格を取り、患者さんの支援に役立てています。